

境高等学校の震災被害状況

境高等学校 藤平 秀一郎

1. 当日の学校の状況

3月11日の地震発生時、境高校は6時間目の途中であった。各教室はもちろんのこと、特別棟でも通常の授業が行われており、体育の授業以外の生徒は校舎内にいた。生徒数は各学年7クラスで280名である。

2. 地震発生時の様子

私は地震発生時に物理準備室で作業をしていた。物理準備室では、やや大きめの初期微動を感じ、その後、戸棚のガラスが音をたてて揺れ出した。揺れがだんだん大きくなり、水槽の水が溢れ始め、中の生物が飛び出さないように押さえていた。その後、揺れがさらに大きくなり、中庭の噴水池の水が波を打って溢れ出し、各教室からは悲鳴のような声が聞こえてきた。物理準備室ではガラスが入っていない棚から本が落下したが、棚そのものは倒れることは無かった。

授業中の各教室では、生徒が机の下にもぐり揺れのおさまるのを待っていたが、中庭に飛び出す生徒や、廊下に這いつくばる生徒もいたという報告をうけた。

3. 地震発生後の対応（避難・待機・生徒の下校の様子）

本震の揺れが収まったことを確認し、生徒・職員は校庭に避難した。避難の際、地震の恐怖で具合が悪くなった生徒を元気な生徒が協力して連れていく姿が印象的だった。校庭で全員の無事が確認された直後に茨城県沖の大きな余震が発生し、生徒達は体育館や校舎が大きく揺れる様子を眺めていた。地震直後に境町の全域で停電したため、ラジオや携帯のワンセグ番組からの情報から状況を判断し、事態の深刻さをだんだん感じていった。

海から遠い境町では津波の心配が無いため、16時30分頃まで生徒達を校庭に待機させ、その後は家に帰るように指示した。境高校には公共交通機関で通学する生徒がいないので、自転車や家族の迎えにより、17時頃には全ての生徒が学校を出ることができた。その後、教員は職員室や各準備室の簡単な片付けを行い帰宅した。

4. 校舎の被害の状況

境高校では、耐震工事が完了していたため、地震による校舎の大きな被害は無かった。以下、細かい被害例を簡単に説明する。（写真は消去されて残っていない）

- ① 渡り廊下の金具が外れて落下した。
- ② 美術室の石膏像が落下して破損した。
- ③ トイレの洗面台の一部が外れて落下した。
- ④ 図書室の本が床に散乱した。（棚は倒れなかった）

5. 学校の周辺の被害状況

境町の震度は5強～5弱であった。境町の東部から旧猿島町にかけての地域では、屋根瓦が落ち、ブロック塀が崩れている箇所が多かった。これに対し、境町の西部から古河市にかけての地域では、屋根瓦が一部落ちている箇所もあったが、ブロック塀は無傷であった。

古河市では、停電が無かったため、夜にはほぼ通常の生活に戻ることができた。境町の東西で、家屋の被害状況が全く異なっていたことが印象的であった。

6. 地震後、学校再開まで

地震発生の次の土日（12日～13日）は業務停止および部活動停止扱いになった。境周辺は茨城県内では被害が少なかったことから、月曜日から通常授業を行った。ただし、全員17時退勤で、部活動は停止となった。当地域は、ガソリン不足以外の不便はほとんど感じられなかった。

7. 今回の地震について反省・改善すべき点

まず、今回の地震で何よりもよかったことは、人的被害が全く無かったことである。しかし、避難経路や整列方法を無視して避難した生徒が多く、日頃の避難訓練の成果が生かされていないと感じた。